

令和 7 年度 東栄中学校「学ぶ力」育成プログラム

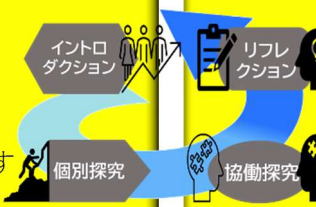
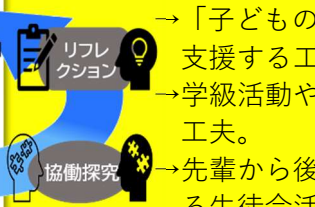
自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：33005

実 態	「学ぶ力」	
	これまでの 成果	課 題
	◇「自分の意見を進んで発言しようとしている」の項目で、42.3%から 62.4%に上昇し、札幌市の平均より高い結果となった。 ◇「自分で計画を立てて勉強している」の項目で、44.7%から 58.6%に上昇し、札幌市の平均より高い結果となった。 (アンケートの結果%は中 2 から中 3 への変容になります)	◇リフレクションシートを実施する中で、目標を意識する生徒とそうでない生徒と差が見られた。また、目標を立てることで前向きに取り組む姿勢は見られたが、自分に合った目標を立てて、授業に取り組める生徒は少ない。 ◇習得した知識や技能を日常生活に活用する力を高める指導の工夫や 1 人 1 台端末を活用した、より効果的な学習の工夫。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の態度〉の現状と課題		
◇「疑問や課題を解決するために、自分で方法を考えるようにしている」の項目で、77.7%（全学年）と札幌市の平均より低い結果となった。 ◇生徒が協働しながら疑問や課題を解決していけるように、表現する活動やペア学習・グループ学習を推進していく。他者との協働において、お互いの良さを伝え合い、認め合うことで相互承認の態度も育てたい。また、「思考力・判断力」の高まりが自ら実感できるための工夫や豊かに表現する魅力を実感させるための工夫を行うとともに、自分の言葉で表現することを困難としている生徒への支援も同時に進める。		

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

意味理解を伴った知識の習得と、知識を使いこなす力 (※知識には、技能も含みます)

取 組	AAR サイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自主的な活動の充実
	◇子ども一人一人の主体性を大切にした多様な学びの実現 →イントロダクションを大切にし、課題を自分ごととして捉え、学びの見通しをもてるような工夫（見通し A） →自分の目標をもち、その実現に向けて必要な資質や能力を身に付けようとするのできる生徒の育成（行動 A 個別） →対話を通して、生徒たちが協働しながら、知識を使いこなす力を伸ばす指導方法の工夫（行動 A 協働） →学習シートを活用し〔リフレクションシート〕自分に必要な学習を把握することができる工夫（振り返り R） 	◇子どもが「～したい」を実現する主体的な活動の実現 →「子どもの声を聴き」子どもの思いを生かした自主的な活動を支援する工夫。 →学級活動や学校行事を通して、互いを認め合える機会を設ける工夫。 →先輩から後輩へと伝統を受け継ぐことを意識した、前向きとなる生徒会活動の工夫。 →生徒の主体的な活動を通じた「いじめ防止の取組」の推進。 

〈本プログラムの実行に向けて〉

